

活動概要

地域包括ケアのための医療・介護と連携した支えあいシステム構築に関する研究を実施。
人口が減少し空き家が急速に増加している地方都市を対象に、地域のもつ生活支援機能を高めることを目指した地域住民のための地域サロンへの活用など、多層的な地域連携体制の構築に向けた実践的な調査・研究を産学官連携で行うことで、従来の住政策だけでは抜本的な空き家解消が図れない空き家活用の新たな方途を考究することを目的としている。

活動内容

活動・研究・委託テーマ	地域包括ケアのための医療・介護と連携した支えあいシステム構築に関する研究
対象となる地域・企業等	福岡県大牟田市（現在、兵庫県西宮市との連携を計画中）
活動学生（ゼミ・学年等）	後期から3年生のゼミが関わることを検討中
連携時期	2014年～現在
学外への広報方法	調査報告書、学会投稿論文
連携内容	本研究では、人口が減少し空き家が急速に増加している地方都市を対象に、市場に流通しにくい空き家を地域資源として捉えた活用策について、地域に点在する空き家を対象に、地域の「互助」や地域医療・介護、NPO法人等が連携した支えあいシステムの構築を目指した地域包括ケアシステムの拠点としての空き家活用、近親者以外で支えあいながら住まうシェアハウスの入居システムの構築、地域のもつ生活支援機能を高めることを目指した地域住民のための地域サロンへの活用などの多層的な地域連携体制の構築に向けた実践的な調査・研究を産学官連携で行うことで、従来の住政策だけでは抜本的な空き家解消が図れない空き家活用の新たな方途を考究することを目的としている。これまでの研究では官学連携で地方都市（福岡県大牟田市）の民間戸建て住宅を中心とした市全域の空き家悉皆調査及び空き家所有者への意向調査を進めてきた。
成果	空き家活用モデル（地域サロン）の計画 空き家所有者への活用意向調査の報告書の作成

研究者・研究グループからの「ひとこと」

社会問題になっている地方都市（福岡県大牟田市）の空き家について、医療・介護の専門家と居住支援協議会と高等教育機関が協働で行っている実践的なプロジェクトである。
学生も含めた協働チームでワークショップを行いながら、具体的な検討を進めて来た。
このような実践的研究で得たノウハウを今後、西宮市の空き家問題に応用していきたいと考えている。

活動内容PR（活動の様子・参加者の声等）

人口減少・高齢化の著しい地方都市・福岡県大牟田市において、研究室の学生を中心に全市の空き家実態調査を実施し、空き家所有者を対象とした空き家の管理実態と活用意向について調査を実施している。この調査結果は学会論文にて投稿を予定している。
このような研究を進めるなかで、空き家を地域資源として捉えた活用策について、地域に点在する空き家を対象に、地域の「互助」や地域医療・介護、NPO法人等が連携した支えあいシステムの構築を目指した地域包括ケアシステムの拠点としての空き家活用を実践的に行う機会を得た。
医療・介護の専門家と居住支援協議会、そして高等教育機関が産学連携で「地域包括ケアシステムの拠点としての空き家活用」の検討ワークショップを実施している。
今後は、具体的な空き家活用モデルを示しながら実践的研究を進めていく予定である。

